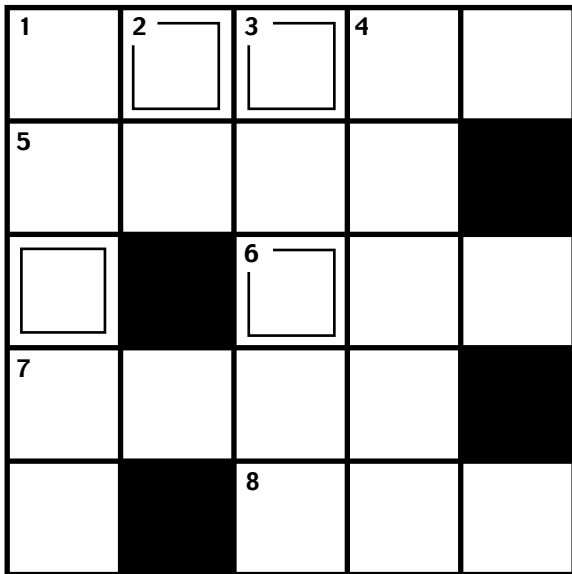


クロスワード PUZZLE パズル

クロスワードを解いて、
二重枠の文字を並べ替えると、ある言葉になります。

- タテのカギ**
- 城端で千本格子の呼びかた
 - 肉眼で見えること
 - 清少納言のくちぐせ?
 - 「おくりびと」の仕事は?



- ヨコのカギ**
- 江戸彼岸の銘木 ○○○○○桜
 - 甘トウガラシ
 - ぞくぞくとした感
 - とりとめのない感想
 - 茶碗・茶入れなどを入れる袋

答えのヒント
「絹糸を作る」

前回の問題枠に致命的なミスがありました。おわびして再掲します。

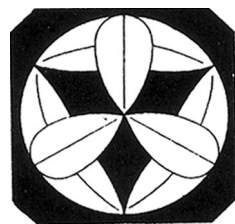


城端ひだまりくらぶ ひだまり日誌

その8 「学習発表会」
10月18日(日)は城端小学校学習発表会です。児童の発表以外にも、子どもに関わる各種団体の活動報告パネル展示があります。ひだまりくらぶでは活動を知ってもらおうと体験会を開催します。童心にかえって一緒に遊びませんか?
(写真は昨年の様子)



※当日はPTAバザーと一緒に、城端教育振興会がぜんざいを販売いたします。
hidamari.blog.nanto-e.com
【ひだまり日誌】携帯からも見られます



九枚笹
「笹」、竹幹があれば「竹」と呼んでいられるようです。ですから家紋帳

家紋のはなし

その15 笹
古来「松竹梅」と賞されるように、竹はめでたいものの代表に置かれていた。まっすぐ伸びた潔い姿に人々は節操・高潔を感じ取ったのでしよう。また雪にしなる竹のたくましさ、美しさが愛されたのかもしれない。竹と笹の区別は曖昧で、一般に葉が主体と

でも竹と笹を分けていません。孟宗竹・熊笹などの葉・幹・根を圖案化して衣服や道具を装飾したのが文様の原型で、後に家紋の意匠に転じたようです。武家の笹紋も多く、豊臣秀吉の軍師として名高い竹中半兵衛は「九枚笹」、戦国武将の上杉氏は「竹に雀紋」を用いました。竹と笹を併せると、富山では多いほうの部類の家紋になります。

城端出身の彫刻家 村井辰夫木版画展

10月20日(火)～11月29日(日) 入場無料
ギャラリー蔵布都 藍 (月曜定休; 但し11/23は開場)

城端出身の彫刻家 村井辰夫さんの木版画展を開催します。御遺族秘蔵の木版画30数点をお預かりしました。村井さんの版画は希少でこれだけ集まることはまず無いと思います。ぜひ足をお運びください。お気軽にどうぞ。



- <村井辰夫略歴>**
- ◆1904年(明治37年) 10月9日城端町(東上町)に生まれる。
 - ◆1923年(大正12年) 富山県立工芸学校(現高岡工芸高校)木工科卒業。東京美術学校(現東京芸大美術学部)木彫部入学。高村光雲、関野聖雲先生に師事。
 - ◆1928年(昭和3年) 東京美術学校彫刻科木彫部を卒業。在学中より鶴田吾郎、石井鶴三先生に教えを受け彫刻を研究、創作活動を展開。
 - ◆1931年(昭和6年) 第12回帝展に「童心讃美」(塑像)が初入選。
 - ◆1932年(昭和7年) 第13回帝展に「龍女」(塑像)入選。
 - ◆1933年(昭和8年) 創立会員8名で「九元社」を結成。
 - ◆1942年(昭和17年) 「第8回九元社彫刻展」に「陶工和助像」を出品、白根賞受賞。
 - ◆1945年(昭和20年) 郷里城端町へ一家疎開する。城端文化研究会を設立。
 - ◆1946年(昭和21年) 第1回日展「拗ねる児」(木彫)が入選。「西村太冲座像」(木彫)を制作。小坂勝人、伊藤四郎、杉山司七氏とともに富山県美術展創設に参画し、審査員をつとめる。
 - ◆1947年(昭和22年) 「昇龍」額(レリーフ・木彫)を城端神明宮に奉納設置。
 - ◆1951年(昭和26年) 彫刻家集団「創型会」を4名で設立。疎開より東京に戻る。
 - ◆1960年(昭和35年) 城端中学校に「光を迎える」(セメント)モニュメントを設置。
 - ◆1981年(昭和56年) 「祝喜寿個展」を銀座・陽栄画廊で開催し、これまでの代表作を主に陳列。
 - ◆1994年(平成6年) 4月20日～6月20日 城端町史館蔵回廊にて特別展「村井辰夫展」開催。
 - ◆1998年(平成10年) 7月5日、94歳にて没する。

画号として、「辰」「立」「立魚」を使用

※蔵布都 藍が変わります!

きよべ奥のcraft Lunを大幅に模様替えしました。どうですか?かなり印象が変わったでしょ。城端の町屋から譲っていただいた虫籠棧を後ろに据え付けています。

ここはオーダーコーナーで、さまざまな御要望に対応できます。(サンプルを参照にベストやバッグのオーダーなど)。多種入荷した綿布からお選びいただくもよし、古着物を持ち込まれるもよし...新たに裂織り布を織ることも可能となりました。使わなくなった正絹着物をご持参ください(2,100円～3,150円/㎡)。思い入れのある着物で創る世界に一つだけの品。いかがでしょうか?

かわらばん

発行
きよべ呉服店
0120-62-0227
蔵布都 藍(くらふとらん)
0763-62-3118
富山県南砺市城端499
にしまち通り
FAX 0763-62-3733
WebSite(URL)
craft-ran.com/kiyobe
E-Mail
kiyobe@craft-ran.com

